

福井大学教育学部附属特別支援学校 令和3年度 公開研究会（第2次案内）

オンライン

後援/福井県教育委員会 福井市教育委員会
福井県特別支援学校教育研究会

「一人一人の学びが深まる カリキュラム・マネジメント」

（4年計画1年次）

サブテーマ

「各教科等を合わせた実践の中で一人一人に最適な活動をつくる」

期日 令和3年 11月19日（金）



ごあいさつ

本校では、子どもたちの実態と生活年齢を考へながら、日常の生活内容を題材に、生活する力・生きる力を育む教育(生活教育)を実践しています。本研究では、新学習指導要領に示されている「何ができるようになるか」(めざす資質・能力としての「知識及び技能」,「思考力,判断力,表現力等」,「学びに向かう力,人間性等」),「何を学ぶか」(教育の内容),「どのように学ぶか」(「個別最適な学び」と「協働的な学び」)の観点での学習活動の充実)の3つの視点で、子どもたち一人一人の学びが深まる授業づくりを目指します。最終目標は、一人一人に最適なカリキュラムをつくり実践することであり、その先に子ども達にとっての幸せな自立と社会参加があると捉えています。

本研究は4年計画で、子どもたち一人一人が能力を最大限に発揮して取り組む活動をつくること、将来の自立と社会参加に向けて必要な教育内容を吟味すること、子どもたちが互いに学び合う集団構成や環境整備をすることなどを考えていきます。

1年次の今年は、各学部で焦点を当てた活動(各教科等を合わせた活動形態)において、子どもたち一人一人の学びを深める授業づくりや活動(単元)の構想、教師の支援のあり方などについて考察します。

コロナ禍にあり、やむを得ずオンラインでの公開研究会となりますが、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

令和3年10月

福井大学教育学部附属特別支援学校 校長 吉田弥恵子

令和3年度 公開研究会

事前配信

◆ 配信期間

11月11日(木)～18日(木)

◆ 配信方法

本校ホームページにてオンデマンド配信します。(参加者にメールでパスワードをお知らせいたします)

◆ 内容

- ① 全体研究概要
 - ・本校の研究概要の説明動画
 - ・本校の研究概要のスライド資料(※当日資料)
- ② 学部研究概要
 - ・学部研究概要のスライド資料(※当日資料)
- ③ 実践報告資料
 - ・各学部の授業実践や事例のスライド資料(※当日資料)
- ④ 授業公開資料
 - ・各学部の組・グループの授業ダイジェスト映像(10分程度)
 - ・活動案(指導案)
 - ・活動の構想・展開図(※当日資料)

参加されるグループの授業公開資料を事前にご視聴いただきますようお願いいたします。

参加されるグループの(※当日資料)を必要に応じて印刷してお手元にご準備ください。

当日の研究会

◆ 日程 11月19日(金) 13:30～17:10 (オンライン受付13:00開始)

受付 13:00～	校長挨拶・ 全体研究概要 13:30～13:55	学部研究会Ⅰ	休憩	学部研究会Ⅱ	休憩	学部助言 16:30～16:45	全体助言 16:45～17:05	閉会 17:05～17:10
		学部の実践と 事例の報告 13:55～15:15		協議 15:25～16:20				
(グループ)	全体	各学部 それぞれ3グループ			各学部	全体		

- ・各学部3つのグループに分かれて行います。参加申し込みの際に、次ページ表の中からお希望の学部と実践報告を第2希望まで選択してください。申込後に参加グループをお知らせします。
- ・学部での報告(実践・事例)のあと、研究会にて協議の柱に沿ったセッションを行います。

◆ 内容 学部研究会Ⅰ（各学部の実践・事例の報告）・学部研究会Ⅱ（協議内容）

研究会当日は、以下のうち2クラスの実践と事例を選んで参加いただけます。

< 小学部 > 「のびのびタイム」クラス遊び

	クラス	実践内容	事例研究
学部研究会Ⅰ	1組 (1,2 学年)	「あそんで、つくって、たのしもう」 様々な素材(段ボール, パック, 空き箱など)とカラーボールを組み合わせた自由な遊びや作品作りの中で、物や言葉を介してやり取りし、自分の思いを表出することをねらった。	「不安や苦手意識の強いC児が、安心して活動に取り組み満足感を得る」-2年生男児- 制作に苦手意識のあった児童が、興味関心に沿った自由な制作活動をする中で、満足のいく作品を仕上げるようになった。他者とやり取りをして「できた」経験を増やすために有効な環境や活動設定について考える。
	2組 (3,4 学年)	「おまつりをしよう」 道具を手作りしてゲーム(ボウリング, 的当て)屋さん遊びを行った。「おまつり遊び」でペアで遊んだり、店屋さんになったりしながら、友達同士で関わり合う力を培うことをねらった。	「認められる経験を積み重ねることで、自信を持って自分の力を発揮する」-3年生女児- 教師に支援を求めがちな児童が、自分の役割を意識する中で、友達の前で意欲的に活動することが増えてきた。気持ちを調整して自信を持って力が発揮できる活動や支援を考える。
	3組 (5,6 学年)	「きめつの駅から出発進行！」 台車に乗るための友達とのやり取り、それぞれの駅(ボール投げ, 玉入れ, 箱積み, 風船など)での遊び方の工夫や広がり、友達とのコミュニケーションの深まりをねらった。	「興味関心を生かし、人や物を介したやり取りを通して、遊び方が広がる」-5年生女児- 有意味の言葉を獲得段階である児童が、題材に少しずつ意識を向けて他者とやり取りして遊ぶようになった。遊び方や人との関わりを広げるための題材設定や支援のあり方を考える。
Ⅱ	研究会 協議内容	児童の実態や学びのあり様を丁寧に見取り、個に応じたそれぞれのねらいを設定し、活動内容や環境設定、支援を日々改善して授業づくりを行ってきた。一人一人の思いや学びに添った活動を、集団の中で展開していく活動づくりについて協議する。	

研究会当日は、以下のうち1グループの実践と事例を選んで参加いただけます。

< 中学部 > 「グループくらし」ニーズ別グループ学習

	グループ	実践内容	事例研究
学部研究会Ⅰ	星グループ	「交流学习をしよう」 興味関心が似通った共通の話題で会話のやり取りを楽しむグループ。運動会で飛ばした風船でつながった他校との交流及び共同学習。相手校と自己紹介や学校紹介をする中で教えてもらった制作活動を通して、創意工夫する力や他者と関わる力を培うことをねらった。	「協働の中で自信や意欲を持って活動し、コミュニケーション力を高める」-2年生女子- 人前で発言することに消極的だった生徒が、友達と協力する活動で自己表現しようとする場面が増えてきた。協働の中で自信や意欲を高め、学びを深めるための活動設定や支援を考える。
	空グループ	「楽しいおもちゃを作ろう」 一人一人の興味関心が様々で、人と関わるのがやや苦手な生徒が多いグループ。手作りおもちゃを小学部の友達へプレゼントする。喜んでもらえるおもちゃを考え工夫し、友達と協力して作り上げていく力を培うことをねらった。	「協働する経験を通して、他者との関係を広げていくために」-2年生男子- 活動に見通しを持ちにくく他者との関わりを苦手とする生徒が、主体的・協働的な活動を通して、自信を持って他者へ関わり、関係を広げていくための支援を考える。
	月グループ	「好きな役になって劇を作ろう」 1, 2語文や身振りで伝えたいことを表現し、人との関わりを好む生徒が多いグループ。お話の中のフレーズを真似してお話遊びが始まった。一人一人がなりたい役柄に変身し、自分の思いを言葉や動きで伝える経験を積んで、自信を持って役割を果たすことをねらった。	「自分の思いやイメージを表現する活動を通して、他者に伝える力を育む」-1年生女子- 集団での活動に参加しにくい生徒が、表現する活動を通して、自分なりの想いやイメージを膨らませたり、身振りや言葉で表出したりして、他者に伝える力を育むための活動設定や支援を考える。
Ⅱ	研究会 協議内容	似通ったニーズの生徒で構成される集団において、生徒の実態やねらいを踏まえ、生活上の目標達成や課題解決を目指した実際の・総合的な活動づくりに取り組んできた。生徒の学びをつなぐための「活動構想・単元配置・他領域との関連を意識したカリキュラム・マネジメント」や「教師の支援」について協議する。	

